

大型海峡および周辺域における海水流動 ならびに底質等の変化に関する総合研究 (要 約)

仲村 俊毅・三戸 芳典・田中 俊輔・平野 忠・青山 禎夫

本研究は、津軽海峡およびその周辺域を選び、海水流動特性、底質等の変動およびこれらが生物生産特にホタテガイの漁場形成におよぼすインパクト等について調査し、今後の海洋利用ならびに海洋開発に必要な資料を収集することを目的に、昭和53～55年度の3年計画で科学技術庁の特別研究促進調整費によって実施したものである。

I 研究の構成と分担

〉構 成く

(1) 流水流動の特性に関する研究

急潮流等の海流の変動およびこれに伴う底層流もしくは底水塊の形成機構を解明する。

(2) 底質変化機構に関する研究

(1)の海水流動の変化によってもたらされる底質形成の変化機構について解明する。

(3) 生物生産のインパクトに関する研究

海洋条件が生物生産に及ぼすインパクトについて、特に底生生物の移動分布、離合集散、成育条件等を放流ホタテガイを用いて調査し漁場形成の可能性を究明する。

〉分 担く

海上保安庁

海上保安庁

北海道大学

東北区水産研究所

青森県水産増殖センター

II 生物生産のインパクトに関する研究の概要

図にみられるように3年間で2,600万個の陸奥湾産ホタテガイ種苗を放流し、各海域における漁場形成条件(生長、移動分散、歩留)を検討して漁場開発のありかたを類型化した。

なお、本研究を中心にして、調査、試験等によって青森県の外海域におけるホタテガイ漁場の開発の可能性が次第に明らかになってきている。

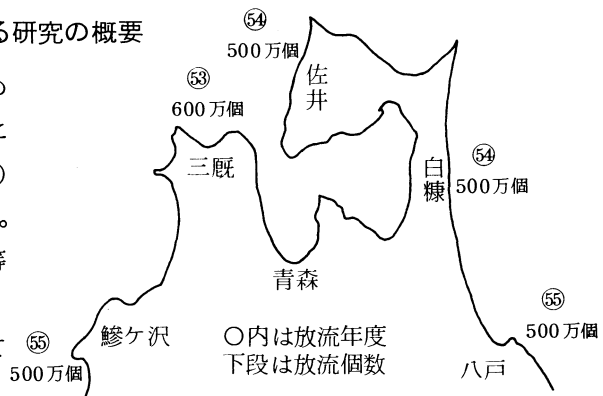


図 ホタテガイ放流実験一覧

本研究の詳細は下記の研究報告書を参照されたい。

大型海峡および周辺域における海水流動ならびに底質等の変化に関する総合研究報告書

科学技術庁研究調整局 印刷中